

<研究ノート>

いい授業とは、いい先生とは

—学生のリアクションペーパーの記述に基づく考察—

法政大学 キャリアデザイン学部兼任講師 遠藤 裕子

【1】はじめに一課題設定

担当している教育心理学や教育相談の授業で、様々な受講の動機に出会う。大半は「教職を目指している」という学生であるが、そうではない学生も結構いることに気づく。例えば、「教師に向いているかどうかを見極めるため」という学生（1年生）がいて、受講した結果、「教師に向いてないと判断したので、今後教職科目は受講しないと決めた」という結論を出していた。他にも「これまでの学校生活の中でひどい教師に複数出会ってきた。どんな勉強をして教師になったのか興味がある」という動機をもつ学生がいた。

近年、教職を希望する人が減少し、教員不足が深刻な問題になっている。また社会全体としては「働き方改革」が叫ばれ、学校現場の“ブラックさ”が問題になってはいるが、なかなか改善されていかない現状がある。そんな中、（筆者の予測の範疇を出ないが）教職に就くことを目指している学生は自身の学校での体験をプラス方向でとらえ、教職に「よいイメージ」をもっていると思われる。そのイメージはどんなものなのだろうか。

担当している教育心理学では、「学習の理論・学習の指導」の授業の導入として、「印象に残っている授業や先生」というテーマで、各自が体験した授業や出会った先生について、グループセッション（以下、GS）で交流を行っている。その回のリアクションペーパー（以下、RP）には受けた授業や出会った先生の影響で専攻科目を決めた、教職を目指すことになったという記述が散見され、興味深い。学生が体験した「いい授業」や出会った「いい先生」とはどんなものなのか、また、学生の教職のイメージはどんなものなのか、学生の RP の記述に基づいて考察してみたいと考えた。

【2】方法

教育心理学の「学習の理論・学習の指導」の回で、「印象に残っている授業や先生」について学生が記述した RP に基づいて考察する。RP は 45 人分あり、巻末に資料として掲載した。考察の数字は記述の通し番

号である。総人数 45 名に対して、通し番号が 47 名分あるのは、授業と先生の両方について記述された RP を分割したことによるものである。

【3】考察

印象に残った授業のうち、「良い印象」での記述は 28 名、うち 21 名が高校と圧倒的に多数であり、次いで大学 3 名、中学 2 名、小・中 1 名、小学校 1 名であった。高校での授業において、印象に残った理由のひとつとして、担当の先生の専門性の高さや知識の豊富さが挙げられ、それを基盤として興味深い授業が展開されていることがわかる。また、先生の“授業のうまさ”や受動的でない授業展開の良さについての記述が複数あった。高校における授業については、旧来型のいわゆる「チョーク アンド トーク」や工夫のなさへの批判が聞かれるが、学生の RP を読む限りにおいて、そうではない実態も伺えた。

印象に残った授業のうち、「良くない印象」の記述は 1 名のみ（29）であった。学習の理論で正負の強化（弱負）を学んでいたため、この学生は、それと結びつけて、メモ（この先生はメモを取ることを禁止している）や、あくび、背伸び、居眠りをしている生徒に対して怒鳴りながら叱ることをとらえている。また、認知特性を学んだ後だったからか、「メモを取らないことに何の効果があるのか」という疑問をもっていることがわかる。視覚優位の認知特性をもっている生徒にとっては、話を聞いているだけでは理解できにくかったり、眠くなってしまったりということが起こるであろうと予測される。

印象に残った先生のうち、「良い印象」の記述は 17 名であった。うち、高校が 7 名、中学が 7 名、小学校が 1 名、大学が 7 名、不明が 1 名で、「良い授業」に比べて高校が特に多いわけではなかった。印象に残った授業に比べて数が少ないのは、教育心理学の授業内容が授業にフォーカスしていたことによる影響も考えられるが、07 の学生が「先生が本当に楽しそうに授業をしていた」と記述しているように、授業を通して先生を見ているということが言えるかもしれない。

印象に残った先生のうち、「良くない印象」の記述

は1名(47)であったが「印象が悪くなくて何度も怒られた」と記述している。この学生の「印象に残る先生・記憶に残る先生は、わかりやすい授業してくれた先生であるか、生活面で助けてくれた先生、何度も怒られた先生の主に三種に分けることができるのではと考える。」というまとめの記述が面白い。

【4】おわりに—ここまでのまとめとして

今季、教育心理学を受講した学生の多くが、特に高校で受けた授業に影響されて専攻を選んでいること、さらに何人かは教職を志すようになったとしていることがわかった。また、「良くない印象も含めて、印象に残っている授業や先生」と指定したにも関わらず、「良い印象」についての記述が圧倒的に多く、彼らの多くは、彼らの学校での体験をプラス方向でとらえていることが伺えた。

また、08の学生が記述しているように、担当している教育心理学や教育相談の授業で行っているGSでは、それぞれが異なる専門科目をもっていることによる話題の広がりが見受けられる。大切にしたいところである。

資料

学生のRPの記述(45人分)を次の通りに整理した。

1.印象に残っている授業について

1-1 良い印象 1-2 良くない印象

2.印象に残っている先生について

2-1 良い印象 2-2 良くない印象

3.教職を目指す動機と結びついている記述

4.目指す教職のイメージと結びついている記述(備考)

- ・番号は通し番号となっている。人数よりも数が多いのは、印象に残った授業、先生の両方について記述した学生がいて、それぞれに分類したためである。
- ・紙幅の関係で具体的なエピソードやグループセッションでの交流の記述を大幅に省略した。
- ・通し番号の後の下線部分は、考察にあたって筆者が加筆した。
- ・3.と4.の下線は考察にあたって筆者が施した。

1.印象に残っている授業

1-1 良い印象

01. (高校) 感動する授業だった。私学でユニークな授業を行っているとのこと。

国語の授業で使う教科書が独自のものでした。その中でスコット・フィッツジェラルドの「バビロン再訪」を扱った授業がとても印象に残っています。その題材

を扱う前に宿題として読んでくるように指示されたのですが、古く、しかも翻訳された小説とあってものすごく読みにくく殆ど内容を理解できませんでした。しかしそのあと授業が進んでいくと複雑な心情描写や時代背景を教えてもらい、その繊細な人間描写に感動しました。

02. (高1) ディベート。他者との対話によって意見を練ったことが印象的だった。

私の印象に残っている授業は高1で行ったディベートである。高1の頃は私も周りもディベートをやったことがなかったため、初歩的な問題について取り扱った(詳しい内容はあまり覚えていない)。本来自分の意見を持って賛成反対に分かれるが、この時はじゃんけんで賛成反対を決めた。そのため自分の考えではないこともあり、簡単には意見を出せないが、同じグループの人との対話や視点を変えた考え方をすることで意見を練ること非常に印象的であり、これも学習の一つの形態なのだと感じた。

03. (高校) 志望学科に影響を受けた。詳細は不明。

私にとって印象深い授業は何かというと、高校の選択科目での倫理学の授業だった。あの授業があって哲学科を志望することを決めたので、ある意味で私の人生に非常に大きい影響を与えたと言える。

04. (小・中) 大学のゼミのような授業。意欲的に取り組むことができた。国立大学の付属。

自分の小中学校には「自学」の時間というものがありました。その時間は自分の興味関心について自分なりに研究方法を考え、最終的に卒業論文のようにまとめる形になります。(エピソードを省略)なぜこの授業が印象に残っているかということ、大学での学びに近いものがあると思っているからです。自分の学びたいことを突き詰めて学ぶことができる点で小中学校での「自学」の時間は非常に有意義だったと思います。さらに、生徒一人一人の個性や自主性を尊重するのでその点からも意欲的に取り組むことができた授業だと思います。

05. (高校) 先生の教科に対する専門性の高さ。苦手意識のあった教科を楽しんだ。

私は高校で、古典を教えて頂いた先生がとても印象に残っています。その先生は、俳句、茶道、習字など、様々なことに長けていて、本も出版されていました。授業では、先生がお香を焚いて平安時代の衣服の香りを嗅いだり、実際に筆で手紙を書いてみたりと体験型授業が多く、自分たちとは遠く離れているように感じ、

苦手意識のあった古典の世界は楽しいものだと教えてくれたことが印象的でした。(エピソードを省略) その古典を座学として、取り扱っている今の高校古典には違和感を感じ、「何故古典を学ばなくてはいけないのか」という疑問につながると考えています。古典を生活の一部と認識できると、古典を学ぶことで、現代の文学により詳しくなれると気付くのではないかと思っています。

06. (高校) 先生が生徒たちに様々な問いかけ。人生の中で大変なことがある度に思い出す。

私は高校で国際教養科という科で勉強していて、外国人講師の先生が1人で進行する授業があった。その中の1つの授業で、実用的な英語を勉強する授業があったが、その授業では、英語の映画や音楽、コマーシャルなどをたくさん見た。その内容を元に先生は様々なことを生徒たちに問いかけてくれた。(エピソードを省略) 私たちが普段の普通の勉強だけしては考えることができないようなことを映画や音楽を通して問うてくれたのだ。この授業で見た映画や先生が問いかけてくれた問いが今でもハッキリと頭に残っており、受験など人生のなかで何か大変なことがある度に思い出すようになった。

07. (中学) 「学ぶことの楽しさ」を教えてくれた。先生が本当に楽しそうに授業をしていた。

私に関わってきた先生方の中で、最も印象に残っている先生を選ぶとすれば、やはり中学の時の社会科の先生だろう。(エピソードを省略) その授業の特徴を挙げるとすれば、その先生の授業で寝ている生徒は、嘘のようだが、1人もいなかった。私が複数の友人に聞いたところ、多くの人がその授業で寝ない理由を「先生が厳しいから」ではなく、「その授業を受けて楽しいから」と答えた。また、いつの間にか、成績に特別な「加点」がされないのにも関わらず、その授業を受けるにあたって予習をすることが生徒の間で当たり前になっていた。これらはその先生が、授業中に本当に楽しそうに解説やお話をして下さっていたことが影響し、生徒の内発的動機が自然に刺激され、もたらされたものであると思う。

08. (大学) 自分自身のことを考えるいい機会になった。他人の意見を聞くことがいい刺激になった。

いままで印象に残った授業は前回のグループセッションです。なぜこの学部を選んだのか、どんな能力が必要なのか、自分自身のことを考えるいい機会でした。これを考えることによって、自分が将来何をやりたい

のかあらためて再認識できましたし、どんな能力が自分にはないのか考えることができました。このような機会はとても貴重だと思います。そして、他人の意見を聞くことで自分にとってもいい刺激でした。

09. (高校) 様々な授業形態を試していた。あこがれて専攻科目、教職を目指すことを決めた。

私の印象に残っている先生は高校の現代文の先生である。授業がとても面白く、(エピソードを省略) 授業形式は、グループワークを主体に、ワールドカフェやジグソー学習、生徒に授業をさせるなど様々なものを試していて毎回飽きることがなかった。さらに、教科書と板書に加えて配布教材が多く、そのどれもがおもしろいため、捨てずにとっておこうと思うものがほとんどだった。私はその先生に憧れて日本文学科という進路を決め、教職を目指そうと決めたが、グループセッションで同じようにある先生の影響で進路を決めた人が多く、学校の先生の影響力は強いのだと感じた。

10. (高校) 塾なしでも受験に対応できる授業だった。質の高い授業。広い知識をもった先生。

常に尊敬している先生で高校の国語の先生。授業の教材に模試の過去問や大学入試過去問を使っていて、塾なしで受験に充分に対応できる授業を行っていた。(エピソードを省略) 自学では到達できそうもない質の高い学習を行っていた。古文漢文のみならず哲学や倫理、自然科学や芸術等広く知識を持っていて、学問とはどういうものなのかを教わった。

11. (高校) 演劇の経験を生かした授業展開。言葉の言い回しや話し方に長けていた。

私が今までで一番印象に残っている先生は高校二年生の時に受け持ってくださいました現代文の先生だ。彼は演劇の経験者だったため、小説のわかりにくい箇所を自ら演じて解説するなど生徒が飽きにくいような授業づくりをしていた。言葉の言い回しや話し方にも長けており、ユーモアを交えながらも締めるべきところは的確に言語化して生徒に伝えるような先生だった。

12. (高校) 生徒の主体性が重視されていた。対話形式だった。能動的に考える授業だった。

私は、高校で人気のあった生物の先生の授業が特に印象に残っています。この先生の授業では、飲食もお昼寝もOK、おしゃべりはむしろ推奨されていました。それでもセンター試験の平均点が非常に高かったのは、生徒の主体性が重視された対話形式の授業だったからです。教科書を友達と勉強してみて、わからないことはお互いに質問し合ったり考えたりして、その上で分

からないことは先生に質問して教えてもらう、一緒に考えるというスタイルの授業でした。この授業では、生徒が能動的に考えることで生徒の理解が深まり、知識の定着率も高かったように思います。また、授業の中での生徒の恥ずかしさに関する話が遠藤先生からもありましたが、友達同士なら質問や教え合いがしやすいですし、周りの人たちと考えてもわからないことを質問するときは自分だけがわからないわけではなくみんなにとって難しいことなのだと思えば安心して、自信をもって質問できます。飲食やお昼寝が許可されているのは、空腹や眠気があつては集中できないだろうという先生の考えからです。お昼寝をする人は、あとで周りの人に教えてもらうというルールでしたが、教えてもらう側は友達相手だと自分事として話が入ってきやすく、教えるという行為は教える側にとっても良い勉強となるので、双方にプラスの効果がありました。私は理系科目が苦手でしたが、この授業スタイルでは生物の学習を苦に感じたことはないし、今でも授業で学んだことは覚えています。

13. (高校) 授業づくりが上手だった。予習が必要で、しっかり予習していくと褒めてくれた。

私が印象に残っている先生は高校1年生の担任です。その先生は英語の授業だったのですが、独特の緊張感が漂う雰囲気での授業でした。(エピソードを省略) クラスメイト全員が英語の授業に対して、他の授業とは違う意識を持って参加していました。今思うと、先生の授業づくりが上手だったことを実感します。

14. (中学) 記憶に残る授業。授業デザインがうまかった。学ぶことで優しくなった気がする。

私が印象に残っている先生は、中学の担任だった先生である。その先生は国語の担当だったのだが、一番記憶に残っている授業は人間の命についての道徳の授業だ。(エピソードを省略) 学ぶことで優しくなった気がする。今考えるとこの先生は授業のデザインの仕方が上手かったのだと思う。

15. (高校) グループで実験。発言できる。わかりやすく楽しかった。

印象に残っている授業は高校の授業です。地学の授業だったのですが、生徒が6人程度で実験をやったり、思ったことをすぐ発言できるのがよかったです。この先生はわからないところありますかと頻りに聞いてくれたのでわかりやすくて楽しかったです。

16. (高校) 「センター国語演習」担当。とても丁寧な授業。熱心に指導してくれた。

私の印象に残っている先生は、高校三年の時に新しく入ってきた国語の先生だ。主にセンター国語演習の授業を担当していた先生だったのだが、とても丁寧な授業だった。(エピソードを省略) そんな一生懸命な先生がいてくれたおかげで私は今大学に受かって授業を受けることができています。

17. (高校) フレンドリー、質問しやすい雰囲気づくり。授業は能動的にするものと感じさせられた。

わたしの印象に残っている先生は高校の時の世界史の新卒の先生だ。最初は東大大学院卒と聞いて勝手にお堅いイメージを持っていた。しかし彼はとてもフレンドリーで普段から一対一でも質問しやすい雰囲気をいつも作ってくれていた。わたしはその先生に授業は受動的に受けるものではなく、能動的に考え意見を持って参加するもの。ということを知って感じさせられた。(エピソードを省略)

18. (高校) 生徒の考察を否定せず、優しく受け止めてくれた。

自分にとって面白かった授業は高校二年生の時の現代文の授業でした。母校は「教育指導要領なんて守るか!」というスタイルでしたので自分は『こころ』も『舞姫』も『山月記』も読んだことがありません。(エピソードを省略) 一章ごとに担当の生徒がいて、自分の章について考察し毎回発表するゼミ形式の授業でした。先生は生徒の考察に否定をせず、無茶苦茶なことを言ったとしても「面白い解釈だね」と優しく受け止めてくださいました。大学において日本文学を学ぼうと思ったきっかけでもあるので忘れない授業です。

19. (高校) 自分で答えられるように導いてくれる先生。質問にしっかりと答えてくれた。

1 人目の先生は高校3年生の時の世界史の先生です。(定年後の男の先生でした。) この先生は授業がとても印象に残っています。この先生の授業は教科書を使わず先生自作のプリントを使って、先生がたくさん話し生徒をバンバン当てていくスタイルの授業でした。生徒にたくさん答えさせるけれど、間違えてもヒントを教えながらきちんと自分で答えられるように導いてくれる先生でした。厳しいところもある先生でしたがわからないところを聞くと放課後などに教えてくれ毎週補講も開いてくれました。

20. (高校) 生徒が意欲をもって学べるように工夫していた。

2 人目も男性の先生であったが、これがまさに今日

の授業でいう生徒が学ぶ意欲を持てるような授業展開をされているものだった。物理は難しくしようと思えばいくらでも難しくできてしまう教科なのに彼は校内を自転車で行き回ったり、鉄球を上から落として床に穴を開けてしまったり、など面白おかしく物理を学べて理系ではない私にとってはとてもありがたかった。

21. (小学校高学年) 気をつけなければならないことを体感して学んだ。

印象に残っている授業は、小学校の担任の先生の理科の授業。高学年になり、初めて少し危険なアルコールランプを使うことになった最初の授業だった。先生はクラス全員を1つの机に集め、机にランプの油をばらまき、マッチを投げた。当然机は大炎上し、クラスがシンとなったのを覚えている。(理科室の机は燃えない素材なのですが火は消えました)インパクトがあったから印象に残っているというのもあるが、遊んではいけない、気をつけなければならないと体感した授業だった。このやり方がどうかはわからないが、やはり体感から学んだことは忘れなかった。

22. (高校) どんな生徒の回答も肯定、話を広げようとする姿勢。

印象に残っている授業は高校二年生の頃の倫理の授業である。先生が毎回の授業で全ての生徒に質問する形をとっていた。本来自分は授業で当てられることを恐怖に感じ、正解を導き出さなければいけないという圧を感じていた。しかし、その授業では、些細な授業に関する質問に加え、授業と関連のない事に関する質問をされる事で生徒全員が授業の新たな形に興味を持っていた。先生がどんな生徒の回答にも肯定を示したり、話を広げようとする姿勢が生徒の積極性に繋がったと考えられる。

23. (高校) 専門科目以外にも精通。間違えることを肯定。専門科目の知識が普通ではない。

自分が印象に残っている先生は何人かいます。一人目は世界史の先生で、東大卒の方で、世界史以外の物事にも精通していました。科学の知識なども豊富で、世界史にでてくる科学の歴史などもとても丁寧に説明して下さったことを覚えています。二人目は英語の先生でした。これは、今日の授業にも通じるのですが、その英語の先生から、英語や語学は間違えて恥をかかないと上達しない、と言われたのを覚えています。自分の授業で恥をかけと言っていたのを今でも覚えています。三人目は古典の先生で、その方は古典の知識を普通の先生と比にならないくらい持っていて、授業がNHKの教養番組のようになっていたのを覚えてい

ます。

24. (高校) 専門科目に対する熱意。進路決定に影響を受けた。

私の印象に残っている「いい」先生は高校の地理の先生だ。私が高校に入学する年から赴任した先生で、地理学科を卒業していることからよくお世話になった。まず、私に地理学科という進路を提示して下さった。進路を決めかねていた時期に「地理学」の面白さ、奥深さを熱弁されて心を動かされ、地理学科への進学を決めた。また、受験期には受験科目として地理を使う生徒がかなり少なくなり、ほとんどマンツーマンで指導していただいた。

25. (高校) 時事ネタや最近あった面白い話を盛り込む。わかりやすく、理解しやすかった。

高校の世界史の先生が、一番印象に残っています。その先生は男の先生なのですが、授業で時事ネタや最近あった面白い話を盛り込んでくれて、常に笑いながら授業を受けることができました。世界史の内容についても、面白い語呂合わせなどを付け加えながら教えてくれるので、とてもわかりやすく、授業内容を簡単に理解することができました。

26. (大学) 聞くのみでなく、自分でアクションを起こす授業。

私が印象に残っている授業は、サイエンスラボと入門外国語経営、教育心理学の授業である。サイエンスラボはもともと実験を行い考察する授業で、今も家で毎週実験を行い家族で実験結果を楽しみながら考察している。印象に残っている授業を考えたとき、真っ先に思い浮かんだのがサイエンスラボで、やはり聞くのみの授業であるより自分でアクションを起こす授業の方が記憶に残りやすいのだと実感した。

27. (大学) 自分の好きなことに関連している。

最後に教育心理学だが、私自身子どもが好きで人と関わるのが好きで、この授業が一番心の底から楽しいと思える授業で、毎週土曜日がいつも待ち遠しい。

28. (高校) プレゼンテーション。そのときは辛かったが大切なことを学んだ。度胸がついた。

私の印象に残っている授業は高校1年生のときの情報の授業です。その授業では圧迫プレゼンテーションということをやりました。それぞれ4人の班を作り、各班にテーマが与えられて調べて発表をするという内容でした。さらにその発表の内容について先生が圧迫

面接のようにとても怖い雰囲気です。質問をしてくる。答えられないと怒られるだけでなく皆の前で恥をかくのでとてもつらかったです。女子は泣いてしまう人も多かったです。この授業では班で1つの質問ではなく、1人1つの質問だったので社会的な手抜きが一切できなかったことは良かったことだと思います。しかしこれは間違えることは恥ずかしいという心理を促進させ、それを利用して勉強させているためあまり良くないことだと思います。とはいえ今となっては「あの授業のおかげで準備することの大切さを学べ、度胸もついた」と思えるようになりました。

1-2 良くない印象

29. (高校) なぜ、メモを取ることを禁止しているのか、何の効果があるのか疑問である。

私の印象に残っている先生の授業は、高校2年のときに習った数学の先生です。先生はすでに定年を迎えているベテランの先生だったのですが、授業スタイルがとても独特でした。まず、授業中シャーペンをもってノートにメモを取ることは禁止で、授業態度にはとても厳しい方でした。何かメモや、あくび、背伸び、居眠りをしている生徒には怒鳴りながら叱り怖いと有名な先生でした。これは、負の強化という方法だったのだと感じました。また、今日習ったバズ学習という方法も取り入れていました。このことから考えると、先生の授業はよい授業だったのではないかと考えるのですが、しかし実際に体験した私にとって先生の授業は、効果的ではないと感じています。それは、メモも取らず常に聞くだけの授業だとどうしても眠気が来ます。しかし、寝てはいけない、あくびをしてはいけない、と眠気との闘いをしていると授業の内容が頭に入りません。このことから、負の強化は、有効な時もあるとは思いますが、有効でない場合もあると感じました。そして、最も疑問に思うことは、何故メモを取ることを禁止していたのか、何か効果があるのか。

2. 先生

2-1 良い印象

30. (高校) 厄介な先生だと思っていたが、生徒の今後のことを大事に考えてくれていた。

これまでの中で印象に残った先生は、高校時代の数学の教師だ。私自身、数2Bや数3の内容に入り、当時数学の学習に苦労していたことがあり、授業内の小テストでも点数が取れず、その先生は補習授業や再テスト等を昼休みや放課後等に行った。私も部活があり、

力を入れていたので得意でない数学の補習などやりたくなく、周りの生徒もかなり面倒に感じていた。お互いに負担が大きくもあり、厄介な先生だと思っていた。しかし、いざ受験となると国公立を目指していた私にとって数学は避けられない科目であり、受験の際には当時の補習がかなり有意義なものだと感じた。後々考えると、私にとっては有意義で先生にとっては負担になっているものだと気づいた。そして、その先生が生徒に関して一番に考え、目先の楽をし、好まれようとするものでなくとも生徒の今後を大事に考えてくれていた先生だったと感じ、最も印象に残っている。そして、私もこのようになりたいと感じた。

31. (高校) 校則に関して、頭ごなしに怒るのではなく、生徒の気持ちを理解してくれていた。

私の高校では、校則に関して、違反した生徒を頭ごなしに怒るのではなく、ある程度の違反には理解を示し、生徒の気持ちを理解してくれる先生に多くの生徒が信頼を寄せていました。生活指導や進路指導の場では、教師の主観を押し付けることなく、生徒と同じ目線で考えることが大切だと感じました。

32. (中学) 授業以外のところでも生徒を見て、覚えてくれていた。

私の印象に残っている先生は、中学時代の英語の先生だ。私は当時、廊下ですれ違う先生には必ず挨拶することを心掛けていて、その先生にも当然挨拶をしていた。私が直接関わり始めたのは3年生になってからで、それまでは私のことなど知る由もなかったわけであるが、いざ3年の初めての英語の授業が始まると、「君、よく挨拶してくれてたよね！すごくいいと思う！」と声をかけてくれたのである。授業以外のところで私の行いを見て、覚えていてくれたことがとても嬉しかった。私がこうして教職の授業を取って、先生を目指そうと思ったのもその先生の存在があったからである。私もその先生のように、授業とは関係のないところでも生徒のことをよく見て、良いところに気づいてあげられるような存在になりたいと思った。

33. (中学) 教科の専門性が高い。アドバイスが的確だった。よく褒めてくれた。

2人目に私の中学校の先生がいます。(2人目) その先生は美術の先生で、私は、中学校は美術部に所属していたためその先生が顧問でした。私はその先生の授業が毎週楽しみで授業を毎回真剣に聞き、美術に関する知識を増やしていきました。(エピソードを省略) その先生はとても有名で個展を開くほどの先生にも関わらず私の絵を褒めて、ここを改善すればより良くな

るなどを教えてくださりました。その先生はとても優しいがダメなところはしっかりダメと指摘してくれるメリハリのついた先生でした。その先生は実際のものを見て学んだり自分で体験したりして学ぶということを重視した先生でした。この先生のおかげで中学生の時、部活も授業もとても楽しく過ごさせていただきました。あの時に得た経験は今でも鮮明に覚えています。私は褒められることが大好きで、褒められれば褒められる程成長していたといま振り返るとそう思いました。

34. (高校) 教科はもちろん、それ以外でも人間として大切なことを教わった。

私の印象に残っている先生は高校 2 年生の時の担任の先生です。(エピソードを省略)この経験は私の人生のターニングポイントであったと言えます。先生に会っていなければ私はこうやって先生と同じ日本文学を専攻していないだろうし、教職課程も取っていません。先生のお陰で私は国語が大好きになりました。授業もおもしろおかしく進めるのに論点は抑えていて本当に尊敬できる先生です。また、先生からは「少しでも自分が悪いと思ったら誠意を込めて謝る。そうするとその人は自分の味方になってくれる。」ということも学びました。

35. (不明) 教科以外のことも物知り。雑談が勉強になった。

私のグループでは、「自分の教科以外のことも物知りの世界史の先生。」と発表した人が居て、私も物知りの先生に出会ったことがあり、その雑談などがとても勉強になったことを思い出しました。私もそのような教養がある人間になりたいです。

36. (小学校高学年) 全力でぶつかってくれた。クラス全体が仲良くなった。

2 人目の先生は小学校 5、6 年生の時の担任の先生です。若い男性の先生だったのですが生徒に全力でぶつかってきてくれる先生で、当時少し問題行動をしていた生徒たちにも全力でぶつかってっていました。その先生の雰囲気や生徒への接し方のおかげでそのクラスは本当に仲が良くなって毎日休み時間に男子も女子も関係なく全員で遊べる学級になっていました。

37. (中学) 厳しかったが、大切な教えがあり、社会で生きる上で必須のスキルを学んだ。小学校は「学級崩壊」その先生のおかげで立て直せた。

私が印象に残っている先生は、中学時代の担任の先生だ。3 年間お世話になった先生だが、授業というよ

りも生活面に関することでもとても厳しい先生だった。例えば、理科や体育、音楽の授業などで教室を移動する際に、机の上に教科書や着替えを置きっぱなしにしておくと、帰ってきたころには全て先生に没収されていて、ずっと返してもらえなかった。他にも、他のクラスの人に教科書を貸したことが先生に知られると、借りた方も貸した方も呼び出されて叱られた。私は貸した側だったのだが、教科書を没収されてその後半年以上返してもらえなかった。また、クラスには 4、5 人ずつのグループがあり、グループごとに黒板を消したり消灯したりする役目が週替わりで回ってきたのだが、仕事を疎かにすると連帯責任でもう一週追加で仕事をやらされたりもした。当時は厳しすぎると憤ったこともあったが、今となっては大切な教えとして私の中に息づいている。例えば机の上に物を置きっぱなしにしないこと、これは盗難を防ぐために非常に重要だし、安易に人に物を貸すべきではないことを学んだ。自分の仕事をきっちりやり遂げることに関しては社会で生きる上で必須のスキルだ。

私の学年は小学生の時にいわゆる「学級崩壊」を起こしており、まとまりに欠け、問題を起こす生徒もいた。しかし中学校に上がってからその先生の担任になると、クラスに連帯感が生まれ、問題を起こす生徒もいなくなった。私が教師を目指すきっかけの一つになった先生であり、頭の上がない恩師である。

38. (高校) 自分の失敗談など腹を割って話してくれた。あこがれの女性である。女子校。

私の最も印象に残っている先生は、高校時代の世界史の先生です。その先生は今の進路を志すきっかけを下さった方であり、私にとって憧れの女性です。その先生を一言で表すなら「規格外」だと思います。女子校ということもあり、自分の失敗談や恋愛の話、生徒の前では普通語らないようなことまで腹を割って話し、まるで「友達」のように私たちと対等に渡り合って下さいました。

39. (高校) 進路、受験について一緒に頑張ってくれた。中高一貫校。

私は、印象に残っている先生について記述したい。紹介したいのは、高校 3 年時の担任の先生でもあり、数学の担当教師だ。私は、中高一貫校に通っていたこともあり、中学、高校と同様の先生ばかりが担任だった。しかし、急に受験学年の年に、今まで関わったこともなく、自分たちのことを全く知らないと言っても過言ではない先生が担任になったのだ。この先生が担任になった時は、クラスメイト全員が不安に包まれ、私自身も受験相談の悩みを相談する先生がいなくなっ

てしまったと感じ、正直すごく怖かった。だが、先生は、この私達の感じた思いや、悩みを覆すような先生だったのだ。4 月初めから、一生懸命自分たちに向き合い、毎日毎日、受験相談をしてくれた。私が進路に本当に悩んでいた時は、放課後残って話を聞いてくれ、自分に足りない部分も指摘してくれ、先生も一緒になって頑張ってくれたのだ。

40. (高校) 「高校の先生はドライ」という考えと大きく違って、生徒と会話する工夫をしていた。

私が今まで出会った先生の中で特に印象に残っている先生は、高校 3 年生の時の担任の先生です。その先生は、国語科の先生で、授業中の話も、普段のお話もとても面白い先生でした。私は、それまで高校の先生に対して、中学校の先生よりはドライな感じであるというイメージを持っていました。しかし、その先生は、進路指導や学園祭でクラスのもめごとが起きた時などにとても親身に相談に乗ってくださり、よく生徒を見ているという印象でした。私の高校の先生のイメージとは大きく違っていたため、とても印象に残りました。その先生は大学で心理学を専攻していたようで、生徒が話しやすいように相談に乗ってくださっていたように思います。毎朝、教室にきて、そこにいる生徒と会話をし、放課後にも、よくクラスの生徒と会話をしているところを見ました。そのように普段から会話をすることで、相談するときなども話しやすい雰囲気を作ってくれたように思います。

41. (高校) 生徒との距離が近く、話しやすかった。

自分が印象に残っている先生は生物の先生でとても話しやすい先生なのですが怒ると生徒に罰としてダンゴムシ、ワラジムシを 20 匹ずつ集めさせる先生がいました。とても年配の先生ですが生徒との距離が近く話しやすい先生でした。そんな先生だからこの罰はそんなにおかしくは感じませんでした。自分にとっては印象に残っている先生です。

42. (中学) 親が教師だったため多くのプレッシャーを感じる中、一人の生徒としてみてくれた。

私の印象に残っている先生は中学時代の 2、3 年生の担任の先生です。私の親は同じ市の違う中学校で教師をしているためほとんどの先生が私のことを知っており、生徒会や級長を任されることが多くプレッシャーを感じておりました。しかしこの先生は私のことを一人の生徒として見てくれていました。親のことでいじられることは多々ありましたが嫌にならない距離感だったのでむしろ心地よかったのを覚えています。こ

の先生がきっかけで私も教師を目指し始めました。

43. (大学) 英語の習得などに加えて、人生や生き方について考えるきっかけを与えてくれた。

入門外国語経営学の授業は、英語の習得のみでなく説得のある文章の作り方・表現の仕方や、英語脳に近づくにはなど、社会に出たときに必要なことなどを先生の経験を通して教えてくださる。英語の学習の仕方もちろんだが、人生や生き方についてかんがえるきっかけを与えてくださりとてもためになるお話を聞かせてくださる。自分の人生に影響を与えてくださる先生は一生忘れることはないだろう。

44. (中学) 授業は頭に残っていないが、個人に対してとても丁寧に接していた。公立中学校。

私の中で 1 番印象に残っている先生は、私が公立中学校に通っていた際の担任だった「酒井先生」である。酒井先生は当時 30~40 歳頃の国語科の女性教師であり、私が中学 2 年生と 3 年生だった際にクラス担任をしてくださった。酒井先生の授業は教育要綱に沿った教科書を使ったものがメインであり、あまり生徒の自主性は必要ではなかった。今回の授業でいうところの『「教える」という視点の授業』であったと思う。正直にいうと授業の内容全くと言っていいほど頭に残っていない。そんな酒井先生が印象に残っているのは、個人に対してとても丁寧に接していたからだと思う。

45. (中学) 体育の授業で一人ひとりの力量を見極めて課題を設定して評価していた。

印象に残っている先生は中学校の頃の体育の先生です。その先生は一人一人の力量を見極めてその子ができることをちゃんとやっていたら評価をくれる人でした。そういうふうに関心を持って一人一人に向き合う授業をしてくれる先生はこの人以外いなかったと感じます。例えば私はマット運動が苦手で後転すらもできないのですが、それ以外のできる技をやっていたらちゃんと評価してくれました。運動が得意な子には少し難しい技をやらせたり、一人一人をちゃんと見ていてくれたな、と思っています。

46. (中学) 生徒に干渉しすぎず、進路について、生徒の希望などを淡々と受け止めてくれた。

私の中でよかった先生は中学 3 年生のときの先生と高校の物理の先生である。中学三年生というと受験期で、生徒によって様々な心情の変化があり 1 番先生としても難しい時期ではあると思う。しかしながらその男性の教師の方は生徒に干渉しすぎず、生徒の行きたい学校や目的、能力を淡々と受け止めてくださったと

いうところがすごくよかったなと思っている。(中には君はこういうところが向いてるなどと進路に指図する先生もいるため)

2-2 良くない印象

47. (中学) 印象が悪く、何度も叱られた。

逆に当時、先生に対して印象が悪く何度も叱られた記憶がある先生もしっかりと記憶しています。中1の時の担任の先生で友達と何度も面談したのが今では懐かしい思い出です。印象に残る先生・記憶に残る先生は、わかりやすい授業してくれた先生であるか、生活面で助けてくれた先生、何度も怒られた先生の主に三種に分けることができるのではと考える。

3. 教職を目指す動機と結びついている記述

- ①彼の授業を受けたことが、私が国語科教員を志すきっかけとなった。
- ②私はその先生に憧れて日本文学科という進路を決め、教職を目指すと決めたが、グループセッションで同じようにある先生の影響で進路を決めた人が多く、学校の先生の影響力は強いのだと感じた。
- ③わたしが教職を取ろうと思ったのはこの先生から受けた恩を私も誰かにしたい、この先生のような先生になりたいと思ったからだ。今回の討論を通じて生徒との授業外での交流は確実に生徒との関係を築くうえで重要なものであると再認識した。私も、生徒に寄り添えるような生徒のことを考えた授業ができるような、そんな先生になりたいと思う。
- ④それぞれの「いい」先生との思い出が、教員免許やその学科への進学の動機になっていた。その生徒の進路、人生を変え得る教師という職業を志していく中で、自分の人生の経験から、生徒に合わせて的確なアドバイスをしてあげられるような教師になりたいと感じた。
- ⑤教師の仕事は、紙に書かれたことを教えるだけではありません。もし教師という職に就くことが出来たら、まずは私自身が生徒に本気で向き合うことを大切にして、私にしか出来ないことを模索していきたいと思います。その先生は教師として、女性として、1人の人間として、生きていく上で大切なこと与えて下さいました。
- ⑥このように生徒のことを思って工夫して授業をしてくれ、いるだけで和やかな空気になる先生が私は大好きでいつしか憧れて先生になりたいと思うようになったのだ。

⑦日本文学科の方は国語科の先生を、地理学科の方は社会科の先生を挙げていたことから、やはり尊敬する先生の言葉というものは自分にとってより響くものであり、各人が志す将来とも深い関わりを持つのだと実感しました。

4. 目指すイメージと結びついている記述

- ①私もその先生のように、授業とは関係のないところでも生徒のことをよく見て、良いところに気づいてあげられるような存在になりたいと思った。
- ②私も2人のようにいつもは優しくわかりやすい授業をし、時には厳しく正しい道へ導けるような先生になりたいと感じました。
- ③私は将来この先生のように勉強面で生徒をサポートするだけでなく、心で語りかける、生徒の人生の恩師となれる教師になりたいです。
- ④自分が生徒と触れ合うときには、勉強ではなく学ぶことを好きになってもらえるような教育をしたいです。
- ⑤授業中にペアワークや班での活動を取り入れてくれる先生も好きでした。実際、僕の高校では英語や現代文の時間でそうした活動があり、とても楽しかった覚えがあります。実際に面と向かって同級生と意見を交換しあうのは、学力やコミュニケーション能力の向上にもつながり、とても有意義な時間でした。僕が仮に教師になったら、生徒のアウトプットの場面として班活動などを設けたいなど考えています。